

● 第9回神戸国際 フルートコンクール

門田展弥

1985年の第1回以来、フルートのコンクールとしてもすっかり国際的に認知されている神戸国際フルートコンクール、その第9回が2017年5月25日～6月4日に開催された。第9回と言っても4年に一度であるから、すでに30年以上が経過している。今や入賞者の多くは世界のフルート界において中心的存在となり演奏・教育両面をリードしている。

これほど確固たる位置を占めているにもかかわらず、前回第8回の折りには、コンクールの熱気というものが随分退潮傾向にあり少なからず懸念を抱いたのであるが、まさか本当に第9回の開催が危機に瀕するとは思ってもよらなかった。各方面でいろいろ取り沙汰されたので、その経緯については繰り返さないが、この由緒あるコンクールが資金難によって廃止されるというようなお粗末な結末に至らなかつたことはまことに幸いである。逆に、この危機によって第9回は前回ははるかに上回る大きな盛り上がりを見せた。反応が余りに大きかつた所為か、その後コンクール会長を務めた久元喜造神戸市長は第10回に向け補助金の復活に努力する旨表明。いずれにせよ、このコンクールが廃止されれば、神戸の名は世界の音楽界から忘れ去られるであろう。

さて、今回は240名が応募、予備審査をクリアした53名中46名が神戸の地で腕を競ったが、実力は前回以上に拮抗していた。審査結果は下記の通り。本選だけで判断するなら、この順位がどのように変わっていたとしてもさほど驚くにはあたるまい。

- 第1位：エレヌ・ブレグ（フランス）
- 第1位：ユ・ユアン（中国）
- 第3位：マリアンナ・ゾーナック（ポーランド）
- 第3位：ハン・ヨジン（韓国）
- 第3位：アンナ・コンドラシナ（ロシア）
- 第4位：秋元 万由子（日本）
- 奨励賞：キム・ソヒョン（韓国）
- 奨励賞：脇坂 颯（日本）
- オーディエンス賞：ハン・ヨジン（韓国）

エレヌ・ブレグの第1位は、実力伯仲の中にあっても納得できる。彼女にとって、本選課題2曲のうち1曲がジョリヴェの「フルートと弦楽合奏のための協奏曲」であったことは相当有利に働いたのではなからうか。フランス音楽のエッセンスが満載されたその演奏には非の打ち所がなかった。同じく第1位に輝いた中国のユ・ユアンも立派な演奏ではあったが、第3次予選の現代作品の出来が幾分物足りないものだっただけに本選に進んだこと自体がやや意外であった。

勿論、このようなハイレベルのコンクールにおいて誰もが納得するような順位を付けることは至難である。が、それでも第3位のコンドラシナと第4位の秋元の間に差と言えるものがあるのかどうか理解に苦しむ。一つでも順位が下がれば、その後

の人生が変わるかもしれない当事者には少々気の毒な気もする。尤も、周囲も本人も一発勝負の順位に過度にとらわれないよう心掛けておくべきではあるが。

一方、結果とは別に目に付いたことが二つある。このコンクールに限ったことではないが、先ず女性の多さである。今回、本選出場者6名のうち男性は1名のみ。フルートがいかに女性に人気のある楽器であるか、あらためて思い知らされた。昨今、若い優秀な男性ピアニストが数多く見受けられるのは真逆である。とはいえ、勿論この傾向がよくないというわけではない。気軽にフルート演奏を楽しむ女性が増えることは音楽界の発展にもつながると思うが、他の楽器との著しいアンバランスは些かいびつに見える。

次に参加者が益々低年齢化していることである。上位入賞者6名のうち半数は10代とのこと。ピアノやヴァイオリン程ではないにせよ管楽器でも昔に比べ習い始める年齢が随分下がったことは確か。遂にフルートの世界にも10代の音楽家がコンクールを席巻する時代が到来したのであるか？フルートを始めてまだ10年そこそこの若者が一流奏者にも引けを取らない高度なテクニックと音楽表現を身に付けられるとすれば、キャリアなど不要であろうか？無論、音楽芸術とは、それ程簡単なものではない。コンクール後、入賞の喜びは重圧に変わるであろう。その重圧をいかにはねのけ乗り越えてゆくかということが、彼らのこれからの課題とも言える。

何はともあれ、第9回大会が無事開催され、そして将来のフルート界を担うべき若い音楽家が巣立ったことはまことに喜ばしい。言うまでもなく、第10回、第11回とこのコンクールが続いてゆくことを願ってやまないが、単に回数を重ねるだけでなく、またフルート奏者・愛好家限定のイベントでなく、日本のクラシック音楽界全般の発展になお一層寄与するようなコンクールへと発展していったほしいものである。東京に比べれば、ごく小さな都市でありながら、市の創設した世界水準の合奏団と合唱団があり、市民の音楽志向も非常に高い神戸、次回コンクールの開催に向け市や市民がどのような取り組みを見せるか、大いに興味を持たれるところである。